

2026年5月29日

2050年カーボンニュートラルに向けた中長期ビジョンを改訂し、 “SOCN2050” Version2.0 を公表

住友大阪セメント株式会社(社長: 諸橋央典、本社: 東京都港区)は、2050年カーボンニュートラル(CN)に向けた中長期目標並びに取組方針を策定した中長期ビジョンを改訂し、“SOCN2050” Version2.0(以下、「SOCN2.0」)を新たに公表しましたのでお知らせ致します。

当社は2020年12月に2050年CNに向けた中長期ビジョン“SOCN2050”(以下、「SOCN1.0」)を策定し、温室効果ガス(GHG)排出量の削減に注力してきました。

また、2023年5月には2035年に向けた中長期的な経営戦略“SOC Vision2035”を策定し、社会の様々な環境課題を解決する製品・ソリューションを提供する『環境解決企業』をありたい姿の一つに掲げています。

これらビジョンの下、化石エネルギー代替廃棄物・副産物の収集・利用を拡大するCN投資の実行や、CO₂再資源化人工石灰石の製造技術開発と事業化等、取り組みを着実に進めてきました。他方で、GX(グリーントランスフォーメーション)関連法制度・政府方針等の外部環境が大きく変化しており、これら社内外の環境変化を踏まえて、今回SOCN1.0の改訂を行いました。

SOCN2.0では、取り組みのロードマップやCN投資計画の具体化と共に、それに基づく中間削減目標の範囲拡大や、2035年度までの削減目標を新設する等の見直しを実施しました。2050年CNに向けた取り組み方針は以下の通りです。

1. 2050年カーボンニュートラルに向けた取組方針

1). 取り組み中の確実性の高い施策 (トランジション)	①化石エネルギー・総エネルギー削減 ②バイオマス・廃棄物エネルギー利用 ③電力削減・低炭素化 ④クリンカ比率低減によるセメント低炭素化 ⑤Ca含有廃棄物原料化による脱炭酸削減
2). 技術開発中の施策 (イノベーション)	⑥CO ₂ 再資源化人工石灰石の製造・利用によるCN化 ⑦カーボンリサイクルセメント製造 ⑧CO ₂ 利用革新技術による新規事業化(陸海のNETs)
3). 調査検討中の施策 (オープンイノベーション)	⑨水素・アンモニア・合成メタンの活用 ⑩CCS(Carbon dioxide Capture and Storage) ⑪コンクリート供用中のCO ₂ 吸収

+環境解決製品・サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ・人工石灰石を活用したカーボンビジネス ・新規ジオポリマー材料(ジオエレメント)の供給・普及拡大 ・高機能品分野
-----------------	--

2050年CNに向けて、2030年代中頃までは現在導入を進めているBAT(Best Available Technology)による取り組み強化を反映した2030年度と2035年度の間削減目標を設定しました。

また、目標達成に向けたKPIとして、化石エネルギー代替廃棄物・副産物の収集・利用の拡大による化石エネルギー代替率の向上については、これまでの2030年度50%に加えて、2035年度60%の高みを目指す目標を掲げています。加えて、改正JISの下でのセメントの少量混合成分増量対応等のクリンカ/セメント比率の低減もKPIとして設定しました。

2. 中間削減目標・関連KPI（基準年度：2013年度）

	範囲	項目	2030年度	2035年度
中間目標	グループ全体	Scope1+2GHG排出量	△36%削減	△42%削減
	セメント製造	CO ₂ 排出原単位	△15%削減	△24%削減
		Scope1+2GHG排出量	△29%削減	△36%削減
KPI	セメント製造	化石エネルギー代替率	50%	60%
		クリンカ/セメント比率	△2%削減	△7%削減

2050年CNを実現するためには、上記のBATの着実な導入に加え、2030年代後半以降に社会実装の進展が想定される革新的技術の開発・導入等による『イノベーション』、さらには他産業・他企業との協働による『オープンイノベーション』による削減施策を総動員した「削減ミックス」が必要です。特にオープンイノベーションの下での排出削減には、水素社会基盤やCCS事業基盤の構築等の外部環境の整備が不可欠です。

当社グループは、これらの「削減ミックス」により、自社グループの2050年CN実現に挑戦すると共に、環境解決製品・サービスの提供によりバリューチェーンを含めた社会全体での排出削減にも取り組んでまいります。

以上

【本件に関する問い合わせ先】

企画部企画 IR グループ TEL 03-6370-2725